

七 浜

第170号

福島県公立学校
退職校長会
いわき支部
発行責任者 一
宏 集
沢 編
七浜編集委員会

本号の主な内容

7面	6面	5面	4面	3面	2面	1面
クラブ活動今年度の計画	方部の伝言板	新人会員の感想	県文学賞準賞受賞	県大会報告・感想	賀詞伝達の様子	いわき支部総会
文芸	8面	ご逝去を悼みご冥福を祈ります	支援教育功労賞受賞	支部組織続き	作品集出版	支部組織

第61回 支部総会開催

海棠のピンク色が青空に映えた4月18日、令和8年度第61回退職校長会いわき支部総会が、来賓の方々をお迎えし、椿山荘にて開催された。武田幸子副支部長の開会のことばに続き、国歌斉唱、物故会員への黙祷後、支部長のあいさつ。沢支部長は、祝受者へ祝意を述べた後、会員同士が「元気で直接出会えることの喜び」を語った。



市長の祝辞を代読する教育長

そして、支部の3つの目標の具現に務めること。さらに、令和9年度には、いわきで県大会が予定されていることを話された。また、一昨年立ち上げた「人材バンク」や昨年立ち上げた「イベントクラブ」も継続して取り組むことを語った。今後、いわきの子どもたちの健やかな成長を支えてほ

しいと話された。

続いて大平幹事から、新会員の紹介があった。今年は、6名の方が入会して下さった。新会員を代表して菅野輝義氏が入会のあいさつを述べた。諸先輩への感謝の言葉の後、いわきの子どもたちのために尽力していくことを力強く話された。続いて記念品・感謝状の贈

呈に移り、記念品は代表の草野雄一氏に贈られた。次に受賞者を代表して椎根幸男氏からあいさつがあった。関わった多くの方々への感謝と本会への謝意が述べられた。

来賓祝辞は、内田広之市長が公務のため、平澤洋介教育長が代読。時代の変化に伴い、これまで培ってきた知見と先人達の功績を振り返り、総合力と構成員を持つて、人づくり日本一の町づくりをしていきたいと語られた。

来賓紹介の後、議事に入った。川口如洪氏と岡部茂氏が議長に指名された。議事はスムーズに進行し提案されたすべての議事が承認された。役員改選も行われ、令和8年度から9年度の支部役員が、提案通り承認された。根本副支部長の閉会のことばで総会は終了となった。

懇親会



福島県公立学校退職校長会いわき支部総会

新田教育事務所長の乾杯の音頭で開会。またたく間に談笑の輪が広がり、会場は賑やかで温かい雰囲気になりました。懐かしい方々との談笑や様々な話題での交流など、閉会の時刻になってもその楽しそうな雰囲気は続いていた。会場を後にする方々の表情は明るく清々しかったです。

(澤田三登利)



退職校長会いわき支部総会



おめでとうござい 長寿のお祝い



賀詞

平北

賀澤 裕三氏

昭和13年5月13日生

賀詞

四倉・久ノ浜

佐藤 忠弘氏

昭和13年2月17日生

5月15日、方部委員の鈴木貴一先生と訪問しました。誕生日は5月13日でしたが、先生のご都合ということで後日となりました。先生と奥様が出迎えてくださいました。

早速、全国退職校長会からのお祝い状と記念品を伝達し、短い時間でしたが興味深いお話を伺いました。

先生は退職後、奥様が以前から特技として続けてこられた詩吟を勧められ、声を出すことは健康長寿の源であると自覚され、現在もいわきの会に所属され、平二小の「マナビイ館」で活動されているとのことでした。

それだけでなく、現在も東日本大学昌平校の詩吟クラブで生徒の指導をされているそうです。そのパワフルな熱量に心を打たれました。庭には芍薬の花が美しく咲いています。益々お元気で。

(平北方部委員 金内 三郎)

誕生日の2月17日に自宅に伺いました。忠弘先生と奥様が温かく迎えてくださり、和やかな雰囲気の中、お祝い状をお渡ししました。

先生は米寿とは思えないほどお元気で、今も筋トレとストレッチを欠かさず行い、有酸素運動のため歩くことを日課にしているそうです。四倉海岸を歩くのが好きで、広い砂浜を独り占めして、自然を満喫しているとのことでした。

また、お庭は果樹園のように、夏みかんなどが植えられています。果樹の花を見たり、渡り鳥に餌をあげたりするのを楽しんでいるそうです。

趣味が山登りとのこともあり、小白井小などのへき地勤務が、先生にとっては、好都合だったことなどを、楽しそうに話されていました。

先生と奥様の益々のご健勝を心から祈念しております。

(四倉・久ノ浜方部委員 野木 謙三)

作品集出版に寄せて

会員の活躍を耳にするのは、うれしいこと。ましてや、ご長寿の会員となると、うれしさも一入である。そんなお一人を紹介したい。阿部正孝氏が画集を出版された。その画集への思いをまとめていただいた。

これからの生き方

阿部 正孝

昨年、88歳(米寿)になりました。いわき市や退職校長会等から祝福され、更に高齢者叙勲もいただき、喜びに浸ることができました。

米寿を記念して、水彩画の「作品集」を出版できたことも嬉しいことであつた。

しかし、3月に膀胱ガンが20年ぶりに再発し、医療センターに入院・手術をするという年になってしまった。

現在は手術前の体調にもどるように努力しているが、体力の低下を感じている。

私の生活目標は2つで

。ボケないように努める。

。寝たきりにならないように努める。

ボケない為に実行している一つに絵を描くことがある。退職以来28年間ランブ画会に入会し、月例会、写生旅行等で会員と楽しみながら実践して

いる。物故会員を含めてランブ画会員にボケたという方が見られないのは絵を描くことの効果と自画自賛している。

読書は大好きで、中央図書館から毎月5〜6冊を借り、暇なときに読んでいるが、時代小説・随筆等が中心である。

寝たきり防止には、体を動かすことが大切と思い、野菜づくりに励んでいる。

昨年1年間に栽培した野菜の数を調べたら42種にもなり驚いている。畑を耕し 畝を作り 種子を蒔き 雑草とり等の作業は大変だが、収穫の楽しみが待っているのです。今まで継続できたと感じる。

友人の指導で、庭や畑の樹木を食用の実がなる木に変えたので旬の果実のおいしさも味わっている。

主治医に「体力・気力が低下しているので余命どれくらい」とたずねたら「わからない」と言われた。

令和8年度 いわき支部の組織

(令和8年6月1日現在)

顧問 山内正衛 賀澤裕三

鈴木雅之 増井健二

支部長 沢 宏一

副支部長 根本良政 高木典子

村田 哲

監事 小峰美保子 斎藤昭三

稲沼正雄

県評議員 沢 宏一 伊達多津也

理事 伊藤 紘 大和田一成

木村恵三 黒澤泰弘

中根孝雄 笠原桂樹

野木謙三 藤川整一

門間公紀 古山隆一

佐藤 悟 鶴沼 淳

吉田幹夫 川口如洪

比佐淳一 岡部 茂

箱崎良二 小野則夫

折笠文昭

幹事長 伊達多津也

幹事次長 武藤忠晴 中島清州

林 和樹

県文学賞準賞に輝く

準賞おめでとうございます。

県文学賞で、3年度の奨励賞に続いて「準賞」に輝いた渡邊隆氏。受賞の喜びや詩作に寄せる思いを綴っていた。

準賞をいただいて

渡邊 隆

令和7年度の県文学賞・詩部門準賞を受賞し、一つの出発点に立った思いがあります。同じ県文学賞で令和3年度に奨励賞をいただいた時と同じ思いがあります。今回は全体の題を「遠い空にある記憶」として12篇を応募しました。前回との違いは、その12篇にテーマが行き渡るように構成の工夫をしたことです。何度も読み直し、言葉削りをしました。心のどこかに求めてやまないものがあります。「そこに置き忘れてきた大切なもの」その大切なものは何か、どこにあるのか。

い、きっとそこにたどり着けるだろうと思う日々の想いを書くには詩の表現方法が相応しいと考えたからです。私たちの思考は眼に頼りがちです。眼は見るのが役目とされませんが、眼は眼自身を見ることができません。内面宇宙を探求したいという想いが詩を書く根本です。今回の詩篇「ざらざらざらざら」という作品はその想いを書きました。見ている私は何者なのか。内面へ向かう道はあるのかを問う一篇です。また今回の詩篇には、植物がテーマの作品がいくつもあります。目の前に植物を置き、対峙し、湧くイメージを言葉としてくみ上げる。このような作業を数日繰り返します。今回の作品では、「リンドウの花蕾」が当たります。この作業は、自己と外宇宙との対話と捉えています。

外なる宇宙と内なる宇宙を探索し、そこから生まれてくる言葉をくみ上げ、大切に組み立てる活動を続けていきたいと思っています。

(12篇の中から)

ここから

空は青く
雲は白い

大地を這うこともできず
天翔けることもできない

海の
空白に

真っ白な入道雲が立つ

風がゆつくりと吹き

曼殊沙華が揺れる

緑色の種子が黄金に変わり
ヒマワリの種はうつむく

魂の最も奥深いところ

柔らかな上下の風に戯れる樹木
昼間に鳴く虫の鳴き声に
耳を澄ます

小鳥の鳴き声に

場所が生まれる

無音から場所は生まれ
ない
音が場所を生む

身体の内深くから湧き上る声を
発するから場所が生まれる

功労賞

おめでとうございます

長年の特別支援教育への労が認められて、功労賞を受賞された門馬栄氏。これまでの歩みを振り返っていた。

功労賞を受賞して

門馬 栄

昨年11月14日、福島市にある杉妻会館にて、令和7年度教育・文化関係表彰式が執り行われ、この度、身に余る光栄である特別支援教育功労賞を拝受いたしました。今回の受賞は、東日本大震災及び原発事故当時、富岡養護学校（当時）の教頭として勤務していた縁もあり、退職後、特別支援教育アドバイザーとしてふたば支援学校に勤務し、双葉地域における特別支援教育への寄与を評価していただいたものと伺っております。

私は、この受賞に値するようないきさつな働きをしてきたわけではありませんが、双葉地

域の大変な環境の中でも、日々子どもたちを温かく支え、共に歩んでくださった保護者の皆様、地域の皆様、そして熱意をもって教育現場を支え続けている双葉8町村の関係者の皆様、先生方に心より深く感謝申し上げます。

今回の栄誉を励みに、今後も子どもたち一人ひとりの可能性を信じ、寄り添う教育の発展に少しでも貢献できるよう精進したいと思います。



☎ 090.4319.8576

方部の伝言板

65

常磐方部の近況

——常磐方部——

丹 孝 平

常磐方部はいわき市の中
央よりやや下に位置し、地
区内には「いわき湯本温
泉郷」「いわき市石炭化石
館」そして映画「フラガー
ル」の舞台となった「スパ
リゾートハワイアンズ」な
どの観光拠点を有する地区
であります。また近年は、
サッカーJ2いわきFCの
活躍により、新たにサッ
カーを通じた街おこしで地
域の活性化を図っておりま
す。先日は、常磐地区の小
学5年生約280名がヴァ
ンフォーレ甲府との試合に
招待され、一般サポーター
と一緒にいわきFCを応
援する素晴らしい機会をい
ただきました。このように
地域としてのまとまりがあ

り、活気あふれる常磐地区
であります。

常磐方部退職校長会は、
今年度新入会員1名を加
え、川口如洪新会長のもと、
計34名での組織構成となり
ます。地域のまとまりその
ままに、会員相互親しみ易
い会であるべく努めており
ます。

しかしながら、昨今の社
会情勢や教育課題等、学校
現場を取り巻く環境の変化
に伴い方部退職校長会とし
ての活動も制限を余儀なく
されております。会員個々
においては様々な形で教育
現場の一助となるべく力を
尽くしております。今後、
様々な教育課題の解決に退
職校長会の出番がもとめら

れることと思います。その
時こそ『温故創新』、新た
な時代に我々の経験が活か
される時です。AIの時代
ではありますが、我々に
はいつの時代も変わらぬ教
育AI（愛）があります。
会の未来に向けて常磐方部
は会員相互の申し合わせに
より、令和60年までの組織
予定表を作成いたしました。

これからも会員相互の親
睦と融和を図り、地域の一
員として歩む常磐方部退職
校長会であり続けたいと思
います。



ご逝去を悼み心からご冥福を祈ります

故 鈴木 仁先生

誕生 昭和25年7月8日
遺族 鈴木 陽一

逝去 令和8年1月20日

故 高木 清先生

誕生 昭和6年10月6日
遺族 高木 清美

逝去 令和8年2月1日

故 三森 浩晶先生

誕生 昭和39年8月22日
遺族 三森 彩音

逝去 令和8年3月1日

故 白土 吉則先生

誕生 昭和11年10月8日
遺族 白土 真直

逝去 令和8年3月20日

故 遠藤 俊博先生

誕生 昭和11年4月5日
遺族 遠藤 隆文

逝去 令和8年4月5日

故 日塔 孝雄先生

誕生 昭和7年10月30日
遺族 日塔 孝彰

逝去 令和8年4月15日

故 上川 順一先生

誕生 昭和7年6月26日
遺族 上川 俊之

逝去 令和8年5月4日



クラブ活動の計画

集い、会話することの効用は、多方面で取り上げられています。集っていますか？会話してますか？

そんな場を提供しているのが、クラブ活動ではないかと思っています。会員の高齢化や会員減など諸般の事情で、運営が難しくなってきたいるクラブもあるようですが、今年も6つのクラブが活動をスタートさせました。今年の活動を見て、心惹かれるものがあれば、即動いてみては？

園芸クラブ

部長 矢内 金五

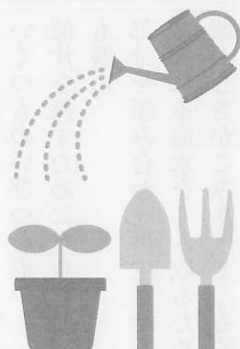
私たちの園芸クラブは会員が10名弱ですが、菊作りを中心に仲よく活動しています。

このクラブの特徴は経験豊富な先輩会員の遠藤孝先生、島田征男先生、鈴木彰先生から直接いいねに指導を受けられることです。

主な活動は、6月から9月までは月1回のペースで、菊苗の定植、水やり、消毒、追

肥などの研修です。その際、自宅で育てた菊を持ち寄り、お互いに学習します。

菊作りの成果は11月初旬の菊花展です。それぞれの部門の最優秀賞にはトロフィーが授与されます。



旅行クラブ

部長 椎根 幸男

旅行クラブの会員は、年々少なくなっていますが、活動は、常交の旅行計画に便乗して実施しています。今年度も年1回か2回、1泊旅行で行う予定です。

退職して、会員同士が会う機会が難しい昨今、旅行は努力なしにできるので、すばらしいのではないのでしょうか。是非、旅行クラブに入って人生を謳歌しようではありませんか。

んか。入会される方を、心から待っています。

新年会や忘年会も、行うことは毎年のことですので書き添えます。

囲碁クラブ

部長 伊藤 紘

今年度は会員8名、一般2名、計10名で出発しました。

年間行事は、4回の大会（6月教育長杯、9月クラブ長杯、12月市長杯、3月チャンピオン杯）があります。そして、8月県大会出場者4名（A組段位者、B組級位者それぞれ2名）を選び、各支部（県北、県中、県南、会津、いわき）の選手と対戦します。しかも、A組の優勝決定戦の棋譜（囲碁の対局の手順を示す記録）は福島民報新聞に載ります。みんな真剣です。

クラブ内の大会で成績優秀者を表彰して、昇段させます。みんな仲良く楽しいです。



絵画クラブ

部長 西山 允雄

去年6月に当クラブ画会員の坂本高先生が亡くなりました。29年もの長い間一緒に活動してきたのに残念でなりません。意気消沈していたところ今年度になって大石正文先生が入会され画会に新風を吹き込んでいただきました。

5月10日に総会を開き、静物写生9回、野外写生2回と写生旅行を計画し決定しました。活動の集大成ともいうべき画会展を9月18日から9月25日まで文化センターで開催します。退職校長会の皆様のご高覧をお待ちしております。是非おいでください。

ゴルフクラブ

部長 金山 一彦

令和8年度のゴルフクラブは、会員数が昨年度より2名減の22名（いわき16名、双葉6名）での活動となりました。今年度も極暑の8月、極寒の12、1、2月を除き、各月の第3木曜日に年8回、市内のゴルフ場で定期コンペを実施する予定です。

好天の下、四季折々の自然の中で、毎回異なる方々との組み合わせで18ホールを回ります。自分の体力と相談しながらボールを追って体を動かして、様々な話題に花を咲かせて爽やかな汗を流します。今年度も「明るく、楽しく、元気に」ゴルフを楽しみたいです。

イベントクラブ

部長 櫛田 祐子

退職校長会の「老いを楽しむ・社会参加・生涯学習」の趣旨を生かす新たな試みとして立ち上げられたクラブです。クラブ員はLINE上で企画を告知し、今までに散歩や四季の花紀行などのイベントを実施し、参加者は写真なども添えて活動の報告をしてきました。今後も企画を掘り起こし、魅力あるクラブとなるように進めてまいります。

また、市内団体開催イベントの告知や支部内の他のクラブ活動の情報提供、人材バンクへの協力依頼などにも活用され、ますます利用促進を促していきたいと思っています。

文芸欄

詩

ささやかしらささやかしら

渡邊 隆

内界へ向かう通路に
こぼれてくる光景はない
一本のスチール線が真つすぐに張
られている
どこからどこへ張られているのか
分からない
透明な扉がざらざらざらざら開き
桜の花びらがはらはらと入り込ん
でくる
ひたすら前へ
消えた灯に点灯するために
丸ごと生まれ
部分から消えていく
全部壊れる前に部分が壊れ
海からこぼれる水

書

「江河大潰從蟻穴」

韓非子

中根 孝雄

(読み)

江河の大潰も、蟻穴従りす
(こうがのたいかいも、ぎけ
つよりす。)

(解説) 些細なことでも見逃
すとそれが大災害の原因とな
るものだの意です。

江河大潰
蟻穴
孝道

部分が朽ちていく
母にもう会えないのかもしれない
バランスをとりながら歩く
遠くを見ることはできない
心にしみ出してくる
その濁りを消し
終点のその先を目指す
吹きさらしの風が前面から吹き
息苦しい
見極めずにやってくることを引き
受け傷つく
ありあわせの幸せに染められたり
はしない
欠片を求めている
あの時割れた欠片
歩いて破片を求め合わせる毎日
いくつものいびつな形
破片を探すために空をも飛び海に
も潜る
部分を組み合わせ再生させる
こぼれる海水をくみ取るための器
懐かしさがこみあげてくる器

短歌

祈りの渦に吸い込まれればよ
かった
身体の傷の回復は見える
心の傷の回復は見えない
壊れた器の再生
拾い集めたものを結び合わせる
夜の睡眠
点灯しながら歩く道すがら
微かに未来の灯が見えたかと思
うとすぐに消える
こぼれる海水を受け止める器
どこへ行くのだろうか橋の上か
ら川の流れを見つめる
笹舟を見つけたらいつも掬い上
げる

誕生日に

阿部 良全

遂に來た九十八歳誕生日
真つ赤な薔薇が中庭に輝る

生かされていつまで励むや特
別の会員名簿しみじみ見詰む

季節に寄せて

小幡 紘夫

スノボーもスキーもなくて
雪思う
エゴの香をよぎりて寺門
くぐりけり

絵画



ぶどう

阿部 正孝

静物画のモチーフにぶ
どうはよく使われている。
変化のある形、丸
みのある立体感を出す
ための明暗の表現に活
用されている。緑色の
ぶどうは描いてもよし、
食べてもよしであった。

俳句

伊藤 弘子

置き去りの燃料デブリ五月闇

百年を家主のやうに凌霄花
のうぜんかずら

川柳

志賀 英信

妻運転 夫助手席 もう5年

下校する 子らのあいさつ
たくましい

編集後記

○今年の総会
の折にこれま
での「七浜」
の合本集を展
示し、ご覧い
ただいた。先日
の理事
会の時に話題
となり合
本について存
じ上げな
い方も見受
けられたか
らである。だ
いぶ前
に、更紙の会
報が判読
不能になり
そうだった
のでコピー
して方部委
員会でお見
せしたのが
最後だった
と記憶して
いる。

今回見てくだ
さった
方の中から
「残部があ
れば欲しい」
の声もあ
り、役立て
ていただけ
れば嬉しい
と思う。希
望の方は、
編集委員に
連絡を。近
年は、ファ
イルに保存
しているの
で、合本は
無い。
○今夏は、
昨年を上
回る暑さに
なるとの予
報も出てい
る。暑さを
乗り切る手
立てを怠
りなく。